

堺市自殺対策推進計画（第3次）（案）

【パブリックコメントを受けての修正】

	旧	新
第2章 堺市の現状と課題 5. 今後取り組むべき課題と重点施策		
P25	-	<p>図表37の下に注釈を追加</p> <p>※「⑩自殺と依存の関連性について」の調査結果は、お酒、薬物、ゲームなどの物質や行為そのものが自殺に直結すること（因果関係）を示したものではありません。お酒、薬物、ゲームなどに関して生じる問題の背景に、「死にたいと思うほど悩む」「死のうと思ったことや、行動に移そうとした」ほどの生きづらさや生活上の困難などが隠れていることがあります。自殺対策を推進する上では、このような認識のもとで取り組んでいくことが重要と考えます。</p>

【最新データの反映】

	旧	新
第2章 堺市の現状と課題 2. 自殺の分析からみた堺市の現状		
P4	図表2 堺市年代別自殺者数の推移	令和2年を追加した図表に差し替え
P5	図表3 堺市年代別自殺者数の割合（令和元年）	令和2年に差し替え
P5	図表4 死因順位別にみた年齢階級・性別死亡数・死亡率・構成割合（平成30年）	令和3年版自殺対策白書の令和元年の表に差し替え
P6	（4）新型コロナウイルス感染症蔓延後の自殺の状況 文章の修正及び追加	令和3年版自殺対策白書を基にした文章を加筆。学生・生徒の自殺者数推移の図表を追加。
P7	図表7 堺市の自殺者の特徴	最新版に差し替え

【その他、表現方法、言葉の精査による修正・追記】

	旧	新
第2章 堺市の現状と課題 1. 本市のこれまでの自殺対策について		
P3 25 行目	平成 29 年からは基礎編を受講した市民を対象に「ステップアップ編」研修を実施し、計 267 人が受講しており、ゲートキーパーの取組が広がってきています。	平成 29 年からは基礎編を受講した市民を対象に「ステップアップ編」研修を実施し、計 267 人が受講して います 。 平成 23 年度からのゲートキーパー養成者数は累計約 5000 人となっており 、ゲートキーパーの取組が広がってきています。
第2章 堺市の現状と課題 2. 自殺の分析からみた堺市の現状		
P4 (2)	自殺者数の推移をみると、「20 歳未満」を除いて、どの年代も令和元年から令和 2 年で増えています。その背景には、新型コロナウイルス感染拡大による、経済的な問題や社会生活の変化が影響していると推考されます。年代別の自殺者数の割合をみると、60 歳以上が 42.3%を占めています。また、39 歳までの若者の自殺に関しても、令和元年では全体の 25%となっており、全国的にも平成 30 年度までは自殺が若者（15 歳未満除く）の死因の第 1 位となっています（図表 2, 3, 4）。	自殺者数の推移をみると、「 20 歳未満 」および「 60～69 歳 」を除いた年代で、令和元年から令和 2 年で自殺者が増えています。その背景には、新型コロナウイルス感染症拡大による、経済的な問題や社会生活の変化が影響していると推考されます。年代別の自殺者数の割合をみると、60 歳以上が 37.8%となつていま す 。また、39 歳までの若者の自殺に関しても、 令和 2 年では全体の 27.3% となっており、全国的にも平成 30 年度までは自殺が若者（15 歳未満除く）の死因の第 1 位となっています（図表 2, 3, 4）。
第2章 堺市の現状と課題 5. 今後取り組むべき課題と重点施策		
P32	5. 今後取り組むべき課題	5. 今後取り組むべき課題と 重点施策 本市の現状を踏まえ、今後取り組むべき課題から重点施策をまとめました。
P32(1)	(1) ゲートキーパーの拡充の必要性	(1) ゲートキーパーの拡充
P32(1) 4 行目	身近な家族や友人に相談する割合が高いことから、市民がゲートキーパーについて学ぶことのできる機会を継続して設ける必要があります。	身近な家族や友人に相談する割合が高いことから、「 市民みんながゲートキーパー 」の 実現に向け 、市民がゲートキーパーについて学ぶことのできる機会を継続して設ける必要があります。
P32 (2)	(2) 啓発活動および相談機関周知の必要性	(2) 相談機関周知および啓発活動の推進
P32 (2) 9 行目	「死にたい」と感じたときや不安を感じたときにためらいなく適切な窓口相談してもらえよう、自殺に対する正しい知識、対応についての啓発活動や相談機関の周知が必要です。	「死にたい」と感じたときや不安を感じたときにためらいなく適切な窓口相談してもらえよう、 相談機関（窓口）の周知や自殺に対する正しい知識、対応についての啓発活動が必要です。

P32 (3) 2行目	このように自殺の背景にはさまざまな問題があり複雑に絡み合っているため、一つの施策だけでなく、関連するすべての施策が一体となり、自殺者を減らすという目標に向かって、相互の役割を發揮し有機的な連携を図ることが必要です。	また、調査結果より、死にたいと悩んだ原因は年代や性別によってさまざまであり複数の原因を抱えている方もいました。 このように自殺の背景にはさまざまな問題があり複雑に絡み合っているため、一つの施策だけでなく、関連するすべての施策が一体となり、自殺者を減らすという目標に向かって、相互の役割を發揮し有機的な 連携の強化 を図ることが必要です。
P32 (4) 1行目	高齢者の自殺者の割合が高く、引き続き高齢者への対策に取り組む必要があります。	高齢者の自殺者の割合が高くなっており、引き続き、 自殺の問題となり得る高齢者の問題（うつ病や認知症等） への対策に取り組む必要があります。
P32 (4) 3行目	調査結果より若い世代の女性で死にたいと悩んでいる人の割合が高くなっていること、女性の自殺未遂者が多いこと、コロナ禍で児童生徒・女性の自殺者が増えていることから、	また、若者の死因の第1位を自殺が占めていること、コロナ禍等で生活に影響を受けた学生・生徒、女性の自殺者が増えていること、調査結果より若い世代の女性で死にたいと悩んでいる人の割合が高くなっていること、女性の自殺未遂者が多いことから、
P33 (5) 3行目	自殺の背景となり得る勤務問題への早期対処や経営者・勤労者に向けたうつ病などのこころの病気等の啓発を行っていくことが重要です。	自殺の背景となり得る勤務問題への早期対処や うつ病などのメンタルヘルスへの理解促進に向けた取組が必要 です。
P33 (5) 5行目	今後も研修会や会議等を通じて	今後も 経営者・勤労者に向けた 研修会や会議等を通じて
P33 (6)	(6) 自殺未遂者や家族等への対応の強化	(6) 自殺未遂者や家族等への 支援 の強化
P33 (6)①	①救急告示病院と医療機関、相談機関との連携強化の必要性	① 救急告示病院と医療機関、相談機関との連携強化
P33 (6)②	②自殺未遂者や家族等への対応力向上の必要性	② 自殺未遂者や家族等への対応力向上
P33 (7) 4行目	専門的な支援に加え、生活の困りごとなど包括的な支援が必要です。	専門的な支援に加え、生活の困りごとなど に対応した自死遺族等への 包括的な支援が必要です。
P33 (8)	(8) 依存症対策と連携した自殺予防の対策	(8) 依存症対策と連携した 自殺対策の推進
P33 (8) 5行目	自殺の背景には、依存の問題があることも視野に入れ、依存症対策との連動性のある取組を進めていくことが必要です。	「死にたい」と思うほどの悩みや生きづらさがあるが故に、依存物質や行為の経験に至ったり、依存症が進行し、うつ状態となることで自殺に追い込まれたりすることがあります。 自殺の背景にある 依存の問題に対する理解の促進を図ること、さまざまな機会を通じて 依存症対策との連動性のある取組を進めていくことが必要です。

第4章 計画の目標		
P36 2行目 (下記図)	すべての市民がいのちを大切に、きめ細かな見守りで支えあうことで、ひとりでも自殺につながる人を減らしていく	すべての市民が <u>きめ細かな見守りで支えあい</u> 、ひとりでも自殺につながる人を減らしていく
第5章 基本方針および取組の推進 > 基本方針2 自殺予防のための環境の充実 > (1) 職域における取組体制の充実		
P39	○労働者がいきいきと働ける職場づくりを実現するため、堺市医師会、堺地域産業保健センター、堺商工会議所等と連携し、研修会などによる普及・啓発を図り、経営者等が率先してメンタルヘルス対策に取り組めるよう支援します。	○ <u>女性を含むすべての労働者がいきいきと働ける職場環境</u> を実現するため、堺市医師会、堺地域産業保健センター、堺商工会議所等と連携し、研修会などによる普及・啓発を図り、経営者等が率先してメンタルヘルス対策に取り組めるよう支援します。
第5章 基本方針および取組の推進 > 基本方針3 自殺の要因軽減のための支援体制の強化> (2) 相談支援体制の充実		
P41	○家庭環境や生活状況、心身の状態、新型コロナウイルス感染症のような災害等、社会的要因を含むさまざまな要因により自殺の危険性が高まっている人に対する社会的な支援を強化し自殺の防止を図ります。	○家庭環境や生活状況、心身の状態、社会的要因を含むさまざまな要因により自殺の危険性が高まっている人に対する社会的な支援を強化し自殺の防止を図ります。 ○ <u>新型コロナウイルス感染症のまん延や災害などの緊急事態下において、生活環境等の変化により苦境にたたされた人（特に女性や若者）に対する支援体制の充実を図ります。</u>
資料編		
P45 用語集	—	追加： <u>自死</u> <u>自殺と同等の意味を持つ言葉。法律・医学用語で使用される「自殺」という言葉は、亡くなられた方やご遺族の尊厳を傷つけるという指摘もあり、特に遺族支援の分野では「自死」という言葉を使用しています。</u>
P46 法律、計画等の概要	堺市 SDG s 未来都市計画 ～～2021 年度から 2023 年度までの 3 年間に優先的なゴールやターゲットに対する取組が示されている計画です。～～	文章追加：堺市 SDG s 未来都市計画 2021 年度から 2023 年度までの 3 年間に優先的なゴールやターゲットに対する取組が示されている計画です。 <u>この計画は、2021 年 3 月に計画全体をゼロベースで見直し、新たに策定されています。</u>

堺市自殺対策推進計画（第3次）概要版（案）

※委託業者（イラストレーター）によるデザインに変更

【最新データの反映】

旧	新
■堺市の現状	
・年代別の自殺者数の割合をみると、60歳以上が42.3%	・年代別の自殺者数の割合をみると、60歳以上が 37.8%、39歳以下の若者は27.3%

【その他、表現方法、言葉の精査による修正・追記】

旧	新
■堺市の現状	
・年齢別自殺者数は「20歳未満」を除いて、どの年代も令和元年から令和2年で増加	削除
—	以下追加 ・「地域自殺実態プロファイル」より本市の重点的に取り組むべき区分は「高齢者」「生活困窮者」「勤務・経営」が上位となっている。
—	以下追加 ○全国的に、若者や女性の自殺が増えており、若者の死因第1位を自殺が占めている
■自殺対策に関する調査概要	
回収状況：配布数 5,000 通のうち回収数 2,234 通（有効回答率 44.7%）	回収状況：配布数 5,000 通のうち 有効回答数 2,234 通（有効回答率 44.7%）
■今後取り組むべき課題と重点施策	
■今後取り組むべき課題	■今後取り組むべき課題と重点施策 本市の現状を踏まえ、今後取り組むべき課題から重点施策をまとめました。
ゲートキーパー拡充の必要性 ・ゲートキーパーの認知度は低く、市民がゲートキーパーについて学べる機会を継続して設けることが必要。 ・関係機関・団体・行政にもゲートキーパー研修を行っていくことが重要。	ゲートキーパーの拡充 ・調査結果より、ゲートキーパーの認知度が低い現状となっています。また、 <u>市民のみならず関係機関・団体・行政も自殺予防の視点をもち適切な対応ができるよう、「市民みんながゲートキーパー」の実現に向け、ゲートキーパーのさらなる拡充が必要です。</u>

<p>啓発活動および相談機関周知の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会には自殺に対する誤解や偏見があり、相談支援につながりにくくなっている。 ・「死にたい」と感じたときや、不安を感じたときに適切な窓口で相談してもらえるよう、自殺に対する正しい知識、対応についての啓発活動や相談機関の周知が必要。 	<p>相談機関周知および啓発活動の推進</p> <p>社会には自殺に対する誤解や偏見があり、<u>調査結果からも相談支援につながりにくく、啓発が十分とはいえない現状があります。</u>自殺に対する正しい知識や対応についての啓発活動に加え、「死にたい」と感じたときや、不安を感じたときに適切な窓口で相談してもらえるよう、さらなる相談機関の周知が必要です。</p>
<p>自殺の原因動機に対応する関連施策との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自殺の原因動機である「健康問題」「家庭問題」「経済・生活問題」などのさまざまな問題に対応する関連施策と一体となり、自殺者を減らすという目標に向かって相互の役割を發揮しながら有機的に連携することが必要。 	<p>自殺の原因動機に対応する関連施策との連携強化</p> <p>自殺の原因動機には「健康問題」「家庭問題」「経済・生活問題」などがあり、<u>調査結果からも、死にたいほどの悩みの原因は年代・性別によってさまざまに複数の問題を抱えている人もいました。一つの施策だけでなく、それらに対応する関連施策が一体となり、自殺者を減らすという目標に向かって相互の役割を發揮しながら、有機的に連携することが必要です。</u></p>
<p>高齢者および若者・女性の支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自殺者が多く、引き続き支援の充実を図ることが必要。 ・若い世代の女性で死にたいと悩んでいる人、女性の自殺未遂者の割合が多いこと、コロナ禍で児童学生・女性の自殺者が増えていることから、今後は重点的に若者・女性の支援の充実を図ることが必要。 	<p>高齢者および若者・女性の支援の充実</p> <p><u>自殺者の年齢別割合や地域自殺実態プロフィールの分析結果より、高齢者に対する支援の充実が必要です。また、若者の死因第1位を自殺が占めていること、コロナ禍で学生・生徒（特に女性）の自殺が増えていることや調査結果からも、若者や女性への支援の充実を図ることが必要です。</u></p>
<p>職場のメンタルヘルス対策の支援強化の必要性</p> <p>死にたいほどの悩みの原因として「勤務問題」の割合が高い。</p> <p>自殺を防ぐために必要な対策として「職場でのメンタルヘルス対策」が必要と答えた人の割合も高い。職域や産業保健と連携し、メンタルヘルスに対する正しい知識や自殺予防について経営者や勤労者の理解を促進することが必要。</p>	<p>職場でのメンタルヘルス対策への支援の強化</p> <p><u>調査結果より、死にたいほどの悩みの原因として「勤務問題」の割合が高くなっています。職域や産業保健と連携しながら、メンタルヘルスに対する正しい知識や自殺予防について経営者や勤労者の理解を促進し、職場でのメンタルヘルス対策への支援を強化することが必要です。</u></p>
<p>自殺未遂者や家族等への対応の強化</p> <p>救急告示病院、精神科医療機関や相談機関等が自殺未遂者やその家族等へきめ細かな対応ができるよう連携体制を構築していくことが必要。</p> <p>自殺未遂者だけでなく、家族等が孤立することのないよう、相互連携の中で家族等へも適切な支援を行うことが必要。</p>	<p>自殺未遂者や家族等への支援の強化</p> <p><u>調査結果より、救急告示病院、精神科医療機関や相談機関等の連携は十分とはいえない現状があります。自殺未遂者やその家族等へきめ細かな対応ができるよう連携体制を構築していくことが必要です。</u></p>

<p>自死遺族等への支援強化の必要性自死遺族の集いや専門相談窓口の認知度は1割以下。専門相談窓口等の周知が必要。身近な人の自死は精神面だけでなく日常生活に問題が生じる場合があり、専門的な支援に加え、生活の困りごとなど包括的な支援が必要。</p>	<p>自死遺族等への支援の強化自死遺族の集いや専門相談窓口の認知度が低く、専門相談窓口等の周知が必要です。また、身近な人の自死は精神面だけでなく日常生活に問題が生じる場合があり、専門的な支援に加え、生活の困りごとなど包括的な支援を行うことが重要です。</p>
<p>依存症対策と連携した自殺予防の対策 最近1年間で「死にたい」と思うほど悩んだことが「たびたびあった」人の中で、薬物の使用経験がある、飲酒問題がある等の割合が高く、自殺の背景には、依存の問題があることも視野に入れ、依存症対策との連動性を進めていくことが必要。</p>	<p>依存症対策と連携した自殺対策の推進 「死にたい」と思うほど悩んだことがある人の中で、依存に関連した問題がある人の割合が高い現状があります。自殺の背景には、依存の問題があることも視野に入れ、依存症対策と連携した自殺対策を進めていくことが重要です。</p>
<p>■計画の目標</p>	
<p>■目標</p>	<p>■計画の目標</p>
<p>○ゲートキーパー研修受講者を2,000人以上にする。 ○相談機関の認知度を80%以上にする。 ○成果指標だけでなく、自殺対策にかかるプロセス（過程）※を重視する。 ○すべての市民がいのちを大切に、きめ細かな見守りで支えあうことで、ひとりでも自殺につながる人を減らしていく。（自殺死亡率13.7以下） ※本市におけるプロセスとは、市民が一人ではないと実感できる「～安心してや、ひとりやないさかい～」の実現をめざすために、不安や悩みを抱く市民それぞれに寄り添いながら、市民や関係機関・団体、行政などが支えあい、連携・協働した相談や援助に取り組むことです。</p>	<p>○ゲートキーパー研修受講者を2,000人以上にする。 ○相談機関の認知度を80%以上にする。 ○成果指標だけでなく、自殺対策にかかるプロセス（過程）※を重視する。 ○すべての市民がきめ細かな見守りで支えあい、ひとりでも自殺につながる人を減らしていく。（自殺死亡率13.7以下） ※本市におけるプロセスとは、市民が一人ではないと実感できる「～安心してや、ひとりやないさかい～」の実現をめざすために、不安や悩みを抱く市民それぞれに寄り添いながら、市民や関係機関・団体、行政などが支えあい、連携・協働した相談や援助に取り組むことです。</p>
<p>■基本方針および取組の推進</p>	
<p>【基本方針1】自殺問題に関する市民の理解の促進 ・このころの問題や自殺に関する正しい知識の普及啓発、相談窓口の周知等をより効果的に実施 ・市民の理解の促進を図るための取組を推進 ↓ ・うつ病などのこころの病気や自殺問題に関する啓発の推進 ・自殺統計の分析と情報提供等の充実</p>	<p>【基本方針1】自殺問題に関する市民の理解の促進 ↓ ■うつ病などのこころの病気や自殺問題に関する啓発の推進 ・自殺予防週間や自殺対策強化月間などのさまざまな機会を通じて、ICT等を活用した啓発活動を実施 ・電話相談やSNS相談を含めた多様な相談窓口を周知 ■自殺統計の分析と情報提供等の充実</p>

<p>【基本方針 2】自殺予防のための環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連施策との連動による「生きることの包括的支援」として、自殺対策を実施 ・行政をはじめ各関係機関・団体と連携し、学校や職域、地域における取組の推進を図り、自殺予防のための環境を充実 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職域における取組体制の充実 ・学校における取組体制の充実 ・地域における取組体制の充実 	<p>【基本方針 2】自殺予防のための環境の充実</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 職域における取組体制の充実 <p>・いきいきと働ける職場環境の実現に向け、労働相談等窓口の充実やメンタルヘルス対策の取組を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学校における取組体制の充実 <p>・いじめ、不登校、問題行動などの未然防止や状況改善に向けた取組、教育プログラム等の取組を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域における取組体制の充実 <p>・地域の関係機関との連携強化、ゲートキーパーの拡充、孤立を防ぐための環境整備等の取組の推進</p>
<p>【基本方針 3】自殺の要因軽減のための支援体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きることの促進要因（保護因子）を増やし、生きることの阻害要因（危険因子）を減らすための取組 ・ゲートキーパー研修等を通じて人材の養成を図り、自殺の要因軽減のためにとぎれのない支援体制を強化 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材の養成および支援者に対する支援 ・相談支援体制の充実 	<p>【基本方針 3】自殺の要因軽減のための支援体制の強化</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 人材の養成および支援者への支援 <p>・市民をはじめ、関係機関・団体、行政に対して、ゲートキーパー研修や支援者支援の取組を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 相談支援体制の充実 <p>・さまざまな要因により自殺の危険性が高まっている人に対する支援体制を強化</p>
<p>【基本方針 4】自死遺族等および自殺未遂者等への支援強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自死遺族等への支援の推進 ・自殺未遂者およびその家族等に対するとぎれのない支援の推進と連携強化 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自死遺族等への支援 ・自殺未遂者等への支援 	<p>【基本方針 4】自死遺族等および自殺未遂者等への支援強化</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自死遺族等への支援 <p>・自死遺族等に対する悲嘆的状況のケアや社会復帰支援等の取組を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自殺未遂者等への支援 <p>・自殺未遂者やその家族等に対するとぎれのない支援の推進と連携の強化</p>
<p>■ 全体のレイアウト</p>	
<p>基本理念→自殺対策を推進するうえでの基本認識→堺市の現状→自殺対策に関する調査概要→今後取り組むべき課題→目標→基本方針および取組の推進</p>	<p>基本理念→<u>堺市の現状</u>→<u>自殺対策に関する調査概要</u>→<u>今後取り組むべき課題と重点施策</u>→<u>自殺対策を推進するうえでの基本認識</u>→<u>計画の目標</u>→基本方針および取組の推進</p>

